

令和6年度 学校自己点検・自己評価

1 目的

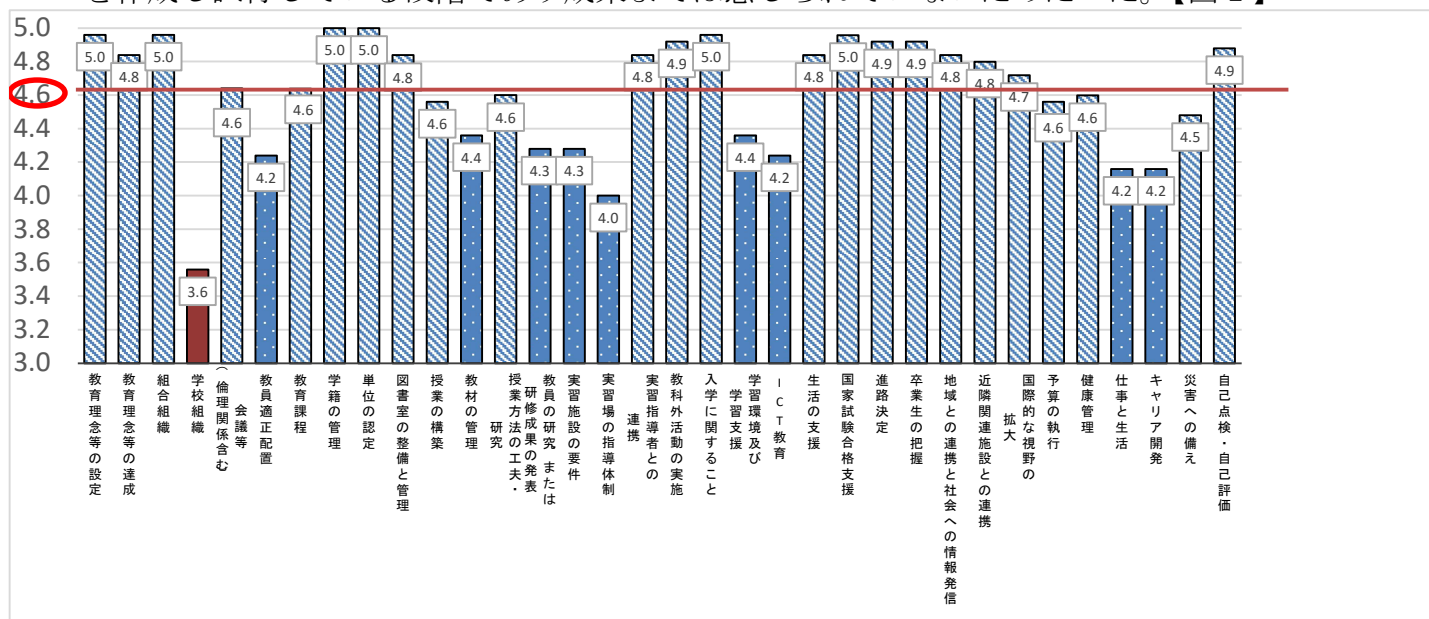
教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るとともに、社会のニーズを踏まえ質の高い看護教育を保証する。

2 方法

全教職員が学校自己点検・自己評価の中項目に則って評価し、学校自己点検・自己評価委員会で集計および分析した。評価基準は、5：できている、4：ややできている（もう少し）、3：どちらでもない、2：ややできていない（不十分）、1：できていないの5段階とした。評価基準の数値を得点化して中項目と大項目の平均点から評価した。

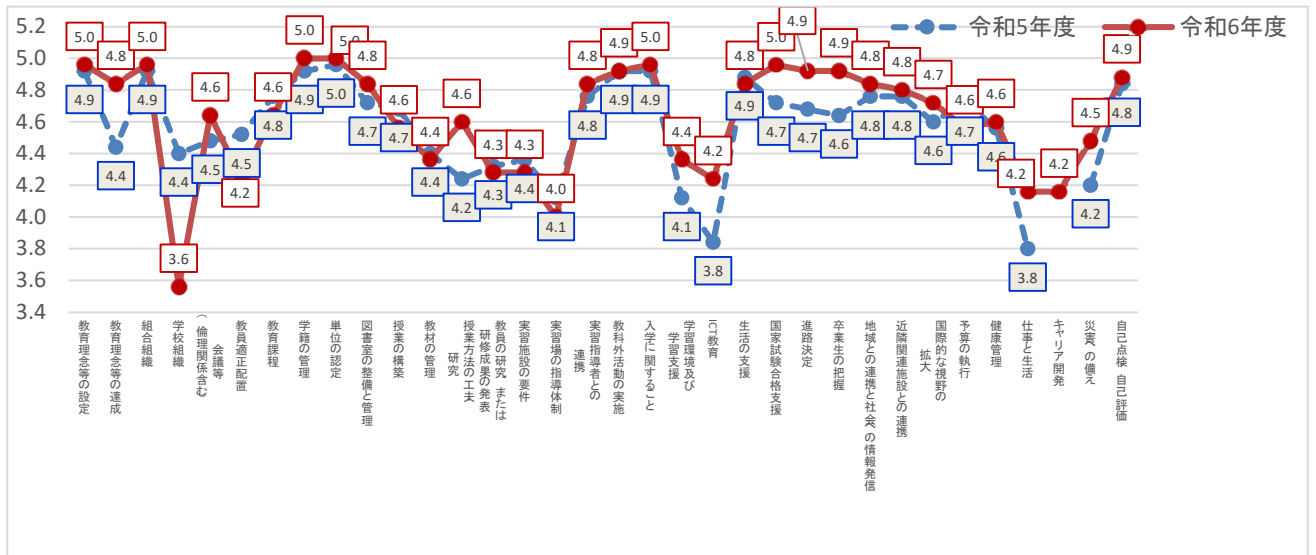
3 結果・評価

中項目全34項目の平均点は4.6点（92.0%）で概ねできているといえる。平均点以上は24項目あり、平均点未満は10項目あった。特に得点が高い項目は、「教育理念・教育目的・教育目標の設定」、「組合組織」、「学籍の管理」、「単位の認定」、「入学に関する事」、「国家試験合格支援」だった。逆に得点が低い3点台の項目は1つのみで、教職員の欠員と休暇取得が影響した「学校組織」が3.6点だった。次いで「実習場の指導体制」、「教員適正配置」、「ICT教育」、「仕事と生活」、「キャリア開発」が4点台前半だった。「実習場の指導体制」においては、看護単位ごとに臨地実習指導者を2名以上配置できていない施設があることや、新カリキュラム開始により実習内容の理解不足が生じたこと、「教員の適正配置」においては、欠員により専門領域の教員が担当できない時があったこと、「ICT教育」においては、ガイドラインの作成はできたが運用に至らなかったこと「仕事と生活」においては、対策を講じ改善しているものの十分ではないと感じていることが影響した。今回新設した「キャリア開発」においてはラダー表を作成し試行している段階であり成果までは感じられていないためだった。【図1】



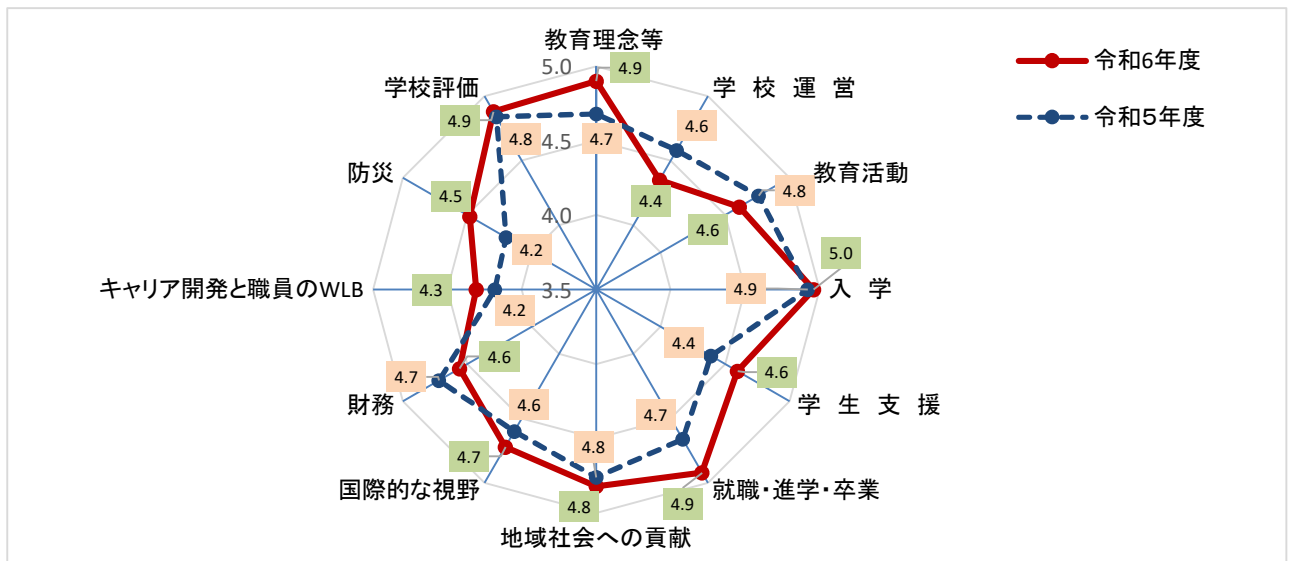
【図1】 評価項目中項目の平均点

前年度と比較し、0.3ポイント以上高かったのは、「教育理念等の達成」、「授業方法の工夫・研究」、「ICT教育」、「仕事と生活」+0.4、「卒業生の把握」、「災害への備え」+0.3の6項目だった。逆に0.3ポイント以上低かったのは「学校組織」-0.8、「教員適正配置」-0.3の2項目だった。「教育理念等の達成」においては、3年目となる新カリキュラムのガイダンスが安定して行えたこと、「授業方法の工夫・研究」においては、コロナが明け、学外やオンラインでの研修に積極的に参加できたこと、「ICT教育」と「仕事と生活」においては情報システム・セキュリティ委員会や評価改善実行委員会の取り組みの成果を感じたことが影響を与えた。平均点を下げた2項目においては、教職員の欠員や休暇取得による補充が適切に行えなかったことが要因となった。【図2】



【図2 評価項目中項目平均点、昨年度との比較】

大項目12項目のうち、最も平均点が高かったのは、前年同様「入学」の5.0点、逆に最も低かったのは「キャリア開発と職員のWLB」の4.3点、次いで「学校運営」の4.4点であった。4点未満の項目はなかった。「学校運営」、「教育活動」、「財務」を除き平均点は上昇した。「学校運営」と「教育活動」は前述の通りだが「財務」においては経営意識の不足が主な要因だった。【図3】



【図3 評価項目大項目の平均値と昨年との比較】

詳細は以下に示す。

項 目	結果・評価
教育理念等 <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等の設定 ・教育理念等の達成 	<p>教育理念は、学校ホームページ、玄関、図書室に掲示し周知している。ディプロマポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを学生便覧や履修案内に示した。更に、シラバスにディプロマポリシーとの関連を示し、学生・教職員共に教育の指針とするようガイダンスで意識づけたが、継続に課題があり、定期的に確認するなど組織的に実施する必要がある。</p>
学校運営 <ul style="list-style-type: none"> ・組合組織 ・学校組織 ・会議等 ・教員適正配置 	<p>中東遠看護専門学校組合は、10月と2月の定例で幹事会、運営委員会を経て、組合議会に上程し、原案のとおり決定した。例規の見直しについては、国の動向を注視し、管理市の袋井市と情報共有しながら改正を行った。</p> <p>4月に学校運営方針及び運用を明確化するための学校組織図を新たに加わった学長職を含め提示し、年度目標を毎月の職員会議で意識づけた。情報のシステム化により業務の効率化を図ってはいるが、逆に複雑になった側面もあり、取り組みが期待される。</p> <p>従来のも会議や委員会（カリキュラム評価委員会、評価改善実行委員会、情報システム・セキュリティ委員会）に加え、新たにキャリア形成委員会を設け、定期的または適宜会議を開催していた。うち、情報システム・セキュリティ委員会では、情報倫理規程の運用を目指したガイドライン、評価改善実行委員会では、合理的配慮についてのガイドラインを作成した。会議の議題においては計画性が不足しているものもあり課題となっている。</p> <p>今年度は前年度末及び年度途中の教員の退職や職員の休暇取得があり欠員が生じた。年度内に職員の補充はできたが、教員においては募集の関係で欠員のまま経過したため、業務に影響を与えた。教員の適正配置においても精神科領域の教員が欠員したため評価に影響した。今後は、キャリア形成委員会で作成しているラダー表、個人のキャリアデザインやアンカーをもとに、体系化した人材育成や開発が必要となる。</p>
教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程 ・学籍の管理 ・単位の認定 ・図書室の整備と管理 ・授業の構築 ・教材の管理 ・授業方法の工夫・研究 ・教員の研究または研 	<p>新型コロナウイルス感染症の特別欠席が27（前年39）件、インフルエンザの特別欠席が3（前年24）件、臨地実習の補習が2件、特別実習が5件あったが適正に教育課程を遂行した。カリキュラム評価委員会では、組織的かつ客観的に授業参観や授業研究、PROG（ジェネリックスキルの測定及び育成するためのプログラム）、卒業生アンケート等カリキュラムの評価を実施し、卒業生アンケートは収集方法を見直したが、データ数が確保できず課題となった。</p>

項 目	結果・評価
<p>修成果の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設の要件 ・ 実習場の実習指導体制 ・ 実習指導者との連携 ・ 教科外活動の実施 	<p>学籍管理は、インフォクリッパーの活用により成績入力や成績確認作業、証明が効率的かつ適正にできた。</p> <p>前々年度に図書室の開室時間を1日開室に変更し、利用者及び貸出数は安定している。活用度が低いビデオを含めた視聴覚機器は使用状況の調査や整理・整頓が必要である。</p> <p>教員の授業時間は、前々年度から2クラス合同授業が可能となり概ね週15時間で整えられていたが、欠員や担当授業の変更により、過重となっていた。</p> <p>既存の視聴覚教材は演習を含む授業で活用できているが、Youtube やテキストのQRコードから動画の視聴、教員が自作している動画の視聴等教材の幅が広がっている。基礎・成人看護実習室の床頭台に設置したTV等古い視聴覚教材の更新は、検討の上決定する必要がある。前年度購入した視聴覚教室の大型モニターは、接触不良により視聴できないことが多く整備が必要である。教室のプロジェクターやタブレットは、予期せぬ不具合、特にハイブリット方式で授業を実施する際に起こりやすいため、引き続き対策が必要となっている。講師用及び教員用タブレットは、バッテリーの劣化等により不具合が生じており、耐用年数・OSのサポート期間終了もあり次年度更新予定である。</p> <p>授業方法の工夫には個人差があるが、それぞれが取り組んでいる。カリキュラム評価委員会の活動による授業参観数は減少したが、集団によるリフレクションを授業改善の取り組みとして開始している。</p> <p>学会や研修は対面を含め積極的に参加し、実習を含む授業や業務の評価は「実践報告カリヨン」で報告した。外部への発表を次年度実施するため準備を行っている。</p> <p>学生室やカンファレンス室、更衣室、駐車場の確保等が不十分な実習施設があった。実習指導者との連携を目指しているが、実習要綱やルーブリックの提示を含めた実習調整が遅れ気味となった実習があった。各看護単位の指導者の配置が不足している施設があり、必要数の配置を依頼した。新型コロナを含む感染症により施設側の人員不足で指導体制が整わない場合があった。</p> <p>近隣の特別支援学校の奉仕活動等を受け入れた。</p>
<p>入学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学に関すること 	<p>入試委員会で受験資格を確認し、入試の計画により、適正に入学者を決定した。新型コロナを含む感染症対策は、社会の状況に合わせて計画通り実施した。入試委員会で推薦入試の住所要件と評定平均の緩和を継続し、推薦・社会人入試による入学者を定員の8割程度に増員した。入試の倍率は、推薦・社会人入試1.2（前年1.5倍）、一般入試は2.1</p>

項 目		結果・評価
		<p>(前年 2.2 倍)であった。一般入試は受験日までの併願による辞退が多く、入学生の確保が厳しい状況にあった。入試の面接は、前年度同様集団と個人を実施し、集団面接の評価の視点は、社会人基礎力のチームで働く力、個人面接は本校アドミッションポリシーに則ったものとした。集団面接を取り入れ、より総合的な判断が可能となっている。</p> <p>入学予定者を対象に、入学前学習を実施した。応援メッセージの配信及び学習進捗状況確認アンケートを実施し、入学予定者の学習状況の把握と、疑問の解決に役立った。</p>
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習環境及び学習支援 ・ ICT教育 ・ 生活の支援 ・ 国家試験合格支援 	<p>予算措置に伴い修繕を行っているが、電球の入れ替えや樹木の手入れが追い付いていない時があった。修繕計画や予算措置されたもの以外は状況に応じて修繕した。前年問題となった玄関付近の蜂は駆除により発生しなかった。</p> <p>物品管理担当により整理・整頓が進んだ。シミュレーションセンターの使用において活用効果を上げる整備が必要だが管理上課題があり検討中である。高価なシミュレーターの経年劣化を計画的に修繕する必要もある。</p> <p>電子テキストや schoolTakt (学習支援ソフト) の使用、MicrosoftTeams により ICT を利活用した教育の運用に努め、ICT ガイダンスや相談を実施するなどの支援を行った。キャリア形成委員会企画での便利な活用術を学びあう学習会が複数回行われた。更なる利活用推進を目指し、継続的な研鑽につなげる必要がある。また、ICT 教育に関わる情報倫理規程運用に向けたガイドラインを作成し、セキュリティソフトを購入した。</p> <p>奨学金や教育訓練は必要に応じて掲示やマチコミで情報提供し支援を行った。基本的な感染予防対策の徹底を行い、感染者はあったものの、クラスターの発生はなかった。</p> <p>国家試験担当を中心に指導計画及び状況を共有するなどチューターと連携し、合格に向けて支援した。</p>
就業 進学 卒業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路決定 ・ 卒業生の把握 	<p>キャリア形成科目のみならず、チューターによる進路の相談や就職担当教員が1年次から進路希望を調査し、情報を共有しながら一人ひとりに合った進路が決定できるよう支援した。また、2年次に実施する就職ガイダンスは、インターンシップの参考となるよう7月開催とした。3年生の1人を除き3月までに進路を決定し、うち61人(96.8%)が管内病院に内定、1人(1.5%)が助産師学校に合格した。</p> <p>卒後3年目までのホームカミングデイの実施と、新規採用者が入職した施設に出向き、様子を聞き取り把握に努めた。また、カリキュラム評価委員が卒後3年目までの卒業生に教育目標達成度の自己評価アンケートを実施した。</p>

項 目		結果・評価
地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携と社会への情報発信 ・ 近隣関連施設との連携 	<p>前年度コロナが5類に移行後、宣誓式やオープンキャンパス、カリヨン祭を通常開催し、ホームページに掲載した。クラウンメロンマラソンのボランティアを含め7団体から依頼があり1・2年生の93(前年27)人が参加した。中学生の学校訪問と高校生の学校見学会が1件ずつあった。</p>
国際的な視野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な視野の拡大 	<p>文化人類学等の科目では、看護師の職務において国境を越えた活動を広い視点で行うことを学んでいた。TOPE C看護英語試験合格を目指し、2年生が看護基礎英語により、3年生が看護英語により英語力を高め7割が合格した。</p> <p>袋井国際交流協会からボランティア活動の案内が3回あり5人が参加した。</p>
財務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の執行 	<p>令和6年度予算の執行状況及び令和7年度予算計画を幹事会、運営委員会、議会に報告した。年度別電気使用量は節電による歳出削減に努めたものの経営意識の獲得には至らなかった。教務課と総務課が協力し、予算内に収まるように実施した。計画したことに関しては計上して購入し、計画どおりでない場合はケースに応じた対応を実施した。</p>
キャリア開発と職員のWLB	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理 ・ 仕事と生活 	<p>令和6年度の有給休暇の取得平均は10.0日で、前年度の10.4日より微減した。計画的取得が進んだ一方で、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに罹患したための休暇6件が影響した。教員のWLBは、小グループ毎の取り組みを継続し、昼休憩の確保の促進や時間外申請用パソコンの増加により改善傾向がみられた。</p>
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害への備え 	<p>定期的な防災訓練や抜き打ち防災訓練を実施し、防災意識の継続につながった。災害マニュアルの見直しを行ったが、実習時に必要な1泊分の食料や物品の確保については声かけに留まり確認が課題となった。</p>
学校の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己点検・自己評価 	<p>評価改善実行委員会が下位項目6点を中心に取り組んだ結果、重点項目として挙げられていたICT教育とWLBにおいて改善をみた。定期的に自己点検・自己評価委員会を開催し課題解決状況の確認や評価方法を検討した。総務課教務課で取り組みの意見交換を行い、課を越えた業務の確認を行った。</p>

4 課題

- 1) 教職員の定数確保
- 2) 将来設計に基づく優秀な入学生の確保
- 3) 教材の整備・更新・充実
- 4) 情報システム・セキュリティガイドラインの運用
- 5) 職員のWLBの充実
- 6) 災害への備えの充実